



三井社長

ホルス

ブースNo.A3-10

グループ35周年の節目
原料と製品をリンクさせた提案も

化粧品原料開発からOEM・消費者向け販売をグループで手掛けるホルスは、今年で創立35周年を迎える。CITE JAPAN 2025では、従来よりもブースを拡大し、これまでの同社の歩みを振り返るパネルを設置するとともに、最新原料から定番原料まで幅広く紹介する。

「毛根幹細胞エクソソーム」は、日本人由来の毛根幹細胞を培養して得られる上清液由来成分で、毛周期と呼ばれるヘアサイクルのうち、成長期だけでなく退行期や休止期にもアプローチする。毛髪の成長のほか、ヘアサイクルの正常化が期待できる。

新規で表示名称「ヒト毛根由来幹細胞エクソソーム」を取得していることから、世界初原料として訴求することができ、英語のINCIについては、も取得が見込まれている。エクソソームを定量化することにより、「エクソソーム」を表記しての訴求も可能になった。

同原料はヒト試験によるデータを既に取得済みだが、城西大学と提携し、細胞レベルでの基礎データも新たに取得した。

「細胞に対するエクソソームの作用機序については、医療分野やエクソソームに関する研究者の間でもまだ明らかになっていない部分が多い。産学共同研究によって得られたデータを活用しながら、積極的に提案していく」(同社)

「サイタイ血幹細胞エクソソーム」は、ヒトの中で最も若い細胞であるサイタイ(へその緒)血由来の幹細胞を培養して得た上清液を使用している。上清液中に含まれる「ヒトサイタイ血由来幹細胞エクソソーム」を確認することで、表示名中に「エクソソーム」の表記を可能にした。

同原料中の成分「ヒトサイタイ血幹細胞順化培養液」も、表示名称およびINCIを世界で初めて取得した。「サイタイ血幹細胞エクソソーム」とともに記載すること、で、「幹細胞」と「エクソソーム」という2つの特徴を同時に訴求することができる。

毛根幹細胞エクソソームとサイタイ血幹細胞エクソソームは、技術発表も予定している。三井幸雄代表取締役が登壇して、それぞれの特長や効果を紹介する。

そのほかの注目原料として、「羊膜エキス」をアピールする。

羊膜は、創傷治癒や抗炎症効果を有しており、再生医療の分野を中心に活用が進んでいる。同社では、化粧品や健康食品向けに高付加価値原料として展開することを見据え、羊膜の研究プロジェクトを立ち上げた。医療分野に基づいたデータ取得に取組んでおり、展示ブースでも研究内容の紹介を予定しているという。

最新の研究データを踏まえた提案を進める一方で、同社はグループとしてOEMや消費者向け販売も手掛けていることから、原料と製品をリンクさせた形の展示も行う。

岡山県産の清水白桃とマスカット・オプ・アレキサンドリアの葉から抽出した植物エキスである「白桃リーフエキス」と「アレキリーフエキス」は、これまでは原料としての提案が中心だったが、処方に関心を持った際の効果を試験データを取得したことから、処方や剤型とセットで提案していく。

フェイスラボ

ブースNo.D19-01

サステナブルな次世代原料や、機能性・ユニークさも備えた処方を多数展示

フェイスラボは、内外美容をテーマに、スキンケアを中心とした化粧品・医薬部外品や健康食品の企画立案から受託製造まで、ワンストップで要望を叶える自社ならではの「技術力」をアピールする。

5回目の出展となる今回は、ブース全体を企業ロゴとの親和性をもたせ、グリーンと木目を活かした温かみのあるデザインで統一し、信頼感を演出。リラククスしながらゆっくり時間をかけて滞在できる空間づくりに努め、「長期的なお付き合いに発展するような新規のお客様との出会いにつなげていきたい」(同社)という。

展示ブース全体では、「見て触れて知る」技術力で未来を支える」というテーマのもと、大きく4つのテーマでブースを構成した。サステナブルで機能性を備えた次世代原料として、未利用資源の茶果果皮から抽出した独自開発原料「Tea Shield」のスキンケア処方のほか、幅広いニーズに心える処方を紹介する。

茶果果皮はチャノキの実を包む皮で、これまで未利用資源として廃棄されてきたが、同社ではこの果皮抽出物に肌のバリア機能を向上させる効果を発見した。化粧品に配合することで肌トラブルの予防が期待できるという。ブースではこの独自原料「Tea Shield」を配合した新しいスキンケア処方を提案する。

また、前回の出展で話題となった「スクインケア」の予防が期待できるという。ブースではこの独自原料「Tea Shield」を配合した新しいスキンケア処方を提案する。

「スクインケア」は、医薬部外品での提案が可能になったことから、2種類の薬用処方の提案を強化していく。

ブース正面には、「#Next It」をテーマに、最新トレンドを取り入れた企画提案品を多数紹介。市場の変化を捉え消費者の心をつかむ必要があるヒットにつながる処方開発のヒントを体感することができる。

中でも注目なのは、「嬉し」性をテーマにした、「見た目のユニークさと機能性を兼ね備えた「Functional」」。 TikTokのショート動画で話題になりそうな、プリンクリームとカフェモカパックを紹介。動画も交えながら実際に手に取ってもらうことで遊び心のあるアイテムを体感することができる。

「クリーンニカルビューティー」と「センソリービューティー」を掛け合わせた提案品では、「青の蜜」と「白の絹」という切り口で2つの美容液を紹介する。機能性があがりながら使用感の良いテクスチャーで肌と心を満たす新感覚美容液だ。

「テクスチャーライブラリーコーナー」では、処方の異なる5種類のクリームを展示。それぞれのコンセプトやテクスチャーの違いを楽しむことができる。

「包括的な技術力でお客様の未来を支えていく」というコンセプトのもと、今回は32処方を一堂に展示し、来場者の目的に合った処方に出会える場を提供する。前回の出展に比べ、処方のバリエーションの拡充や、さらに進化した処方を提案すること、未来をも創るパートナーとして選ばれたいことを目指している(同社)



東色ピグメント

ブースNo.D9-06

スキンケア要素を取り入れた提案強化
欧州のトレンドを意識した原料も紹介

東色ピグメントは、東色Care Makeup (様々なケアを創っていく)を製品開発のコンセプトとして掲げ、東色Care Make

pを具現化した「Care Cosmetics」の開発に注力している。「東色Care Makeup」は、化粧品の本質である「Care」を追求したもので、広義のCareを含めた新たな概念となっている。「Basic Care」「Special Care」の3種類に分類しており、既存の製品カテゴリーにとらわれないこと、それぞれに独自の価値を持たせている。

「東色Care Makeup」とは、化粧品の本質である「Care」を追求したもので、広義のCareを含めた新たな概念となっている。「Basic Care」「Special Care」の3種類に分類しており、既存の製品カテゴリーにとらわれないこと、それぞれに独自の価値を持たせている。

「時代の変化とともに、人々の価値観の多様化が急速に進んでいる。当社が急進に進んでいる。当社が急進に進んでいる。当社が急進に進んでいる。」

「時代の変化とともに、人々の価値観の多様化が急速に進んでいる。当社が急進に進んでいる。当社が急進に進んでいる。」

「時代の変化とともに、人々の価値観の多様化が急速に進んでいる。当社が急進に進んでいる。当社が急進に進んでいる。」

日光ケミカルズ

ブースNo.C12-01

伝統×革新技術で幅広く原料を提案
会期中に配布するマガジンにも注力

日光ケミカルズは、CITE JAPAN 2025において「温故知新」をテーマにブースを展開する。過去の経験や知識を礎に新たな知見を得る

という意味を持つ「温故知新」を進化させ、1946年の創業以来培ってきた知識・経験と現代の最新技術を融合させた新たな価値を創造することを目指している。

「NIKKOSOLVE」シリーズで、100%植物由来でサステナブル特性を備え、かつ石油由来の可溶性剤よりも優れた可溶性性能を発揮する。

「NIKKOSOLVE」シリーズで、100%植物由来でサステナブル特性を備え、かつ石油由来の可溶性剤よりも優れた可溶性性能を発揮する。

「NIKKOSOLVE」シリーズで、100%植物由来でサステナブル特性を備え、かつ石油由来の可溶性剤よりも優れた可溶性性能を発揮する。

「NIKKOSOLVE」シリーズで、100%植物由来でサステナブル特性を備え、かつ石油由来の可溶性剤よりも優れた可溶性性能を発揮する。

日光ケミカルズは、CITE JAPAN 2025において「温故知新」をテーマにブースを展開する。過去の経験や知識を礎に新たな知見を得る

日光ケミカルズは、CITE JAPAN 2025において「温故知新」をテーマにブースを展開する。過去の経験や知識を礎に新たな知見を得る

日光ケミカルズは、CITE JAPAN 2025において「温故知新」をテーマにブースを展開する。過去の経験や知識を礎に新たな知見を得る

日光ケミカルズは、CITE JAPAN 2025において「温故知新」をテーマにブースを展開する。過去の経験や知識を礎に新たな知見を得る

日光ケミカルズは、CITE JAPAN 2025において「温故知新」をテーマにブースを展開する。過去の経験や知識を礎に新たな知見を得る

アンチエイジング ブースNo.D15-16

浸透性・安定性を強化した浸透型NMN誘導体を提案

アンチエイジングは、ヒト幹細胞培養液を日本に初めて導入し、現在も化粧品原料として提供を続けている。

「化」をテーマに、浸透型NMN誘導体「Pentide-NMN」や、Pentide-NMNとヒト幹細胞培養液を組み合わせた濃縮エクソソームを添加した「RSLiposome3・OENMN」をメインに展示する。NMNはサプリメントとしてよく知られている一方、化粧品原料としての活用については、安定性や皮膚浸透性の低さをはじめとした多くの課題があった。特許による制限もあったことから、化粧品へのNMNの配合事例は限られたものとなっていた。

同社が提案する「Pentide-NMN」は、浸透型ペプチドをビタミンの安定に用いた原料「Pentide-NMN」の技術を用いた原料で、細胞膜への吸着性が高く、受容体への接触率向上を図っているため、細胞内へ取り込まれやすくなっている。塗布すると皮膚へ浸透し、皮膚細胞などの組織内でNMNへ変換され、その後NAD+に変換されることで、さまざまな効果をもたらす。



「RSLiposome3・OENMN」は、Pentide-NMNと、ヒト幹細胞培養液「RemyStem」を組み合わせ、濃縮エクソソームを添加したもので、全成分表示にも「ヒト脂肪由来間葉系細胞エクソソーム」と記載することができている。RemyStemは、同社で取り揃えている全てのヒト幹細胞培養液の起点となっている原料で、純粋な100%のヒト幹細胞培養液に、品質保持のため3%の1,2-ヘキサジオールを添加している。

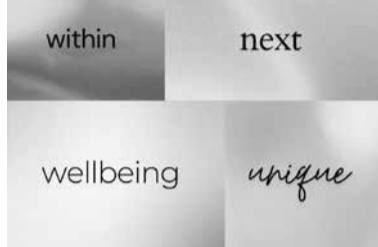
NMNとエクソソームの試験データを踏まえながら発表する。技術発表では、化粧品原料としてのNMNの効果については、この2原料の試験データを踏まえながら発表する。

マツモト交商 ブースNo.B9-05

実際に製剤に触れて試せるセンサーバーで効果を実感

マツモト交商は、CI TE JAPAN 2025において「BeautyXU」をコンセプトにブースを展開する。多様な美容に対する「自

分らしい美容」を提供するという思いが込められている。展示ブースでは、「within(マルチファンクション、スキニフィケーション)」「next(天然由来、サステナブル、ハラル/ヴィーガン)」「wellbeing(ストレス緩和、敏感肌)」「unique(浸透、マツモトオリジナル原料)」の4つのキーワードに基づいて原料や処方方をラインナップする。サプライヤー13社と共同で出展し、そのうち8社は海外から招いた。また、今展示会から新たな試みとして、来場者が実際に処方に触れたり、手に取って試すことができると紹介する「Nano Capsulelect



センサーバーを設置した。今回のテーマである「BeautyXU」には、自分らしい美容を追求するという意味を込めているが、「自分らしい心地よさ」とは最終製品でこそ実感できるものだ。センサーバーは、原料が製品として仕上がった時の感触を実際に体験していただくことを目的に今回取り入れた。化粧品においては実際に手に取ることで感触を感じていただくことが重要だと考えている(同社)

ion」は、セミオーダー型オリジナルリポソーム原料で、市場で認知度が高い原料や人気のある原料14成分の中から好きな2成分を選ぶだけでオリジナル原料が作成できる。さらに、化粧品機能性訴求に使えるデータ(保湿試験データやオリジナルの写真など)も付属しており、オリジナル製品でありながら小ロットかつ迅速に調達することができている。2023年のIncosmetics Globalでブロンズ賞を受賞した「Seabalance」は、サルガッサムと呼ばれる海藻をアップサイクルした多機能O/W乳化剤で、サルガッサムに含まれるセルロースを活用し、ピッカリク乳化剤としてアップサイクルした。電解質に対する高い耐性を持ち、肌への伸びの良さや保湿効果を発揮する。「Geofusemoist」は、マツモト交商の独自技術により親水性と疎水性のバランスを最適化し、粉体でありながらしっとり感を有する。

る新しい感触の複合粉体で、スキンケア製剤に保湿感を与えながらべたつきを抑えた新感覚な心地よさを提供する。また、商社ならではの強みを活かしたトータル処方の提案も行う。「プラスワンの発想で、ヘアコンディショナーの可能性を広げる」をテーマに、なりたい髪の仕上がり別に最適な原料と処方方を提案するほか、洗顔やボディソープ、シャンプーなどの洗浄系製品において重要性能の1つである泡について、Merquat配合の洗浄系製剤ベイスにInulin-SCを添加することで得られる効果についても紹介する。

香栄興業

ブースNo.A12-08

シーンに応じて様々な調合香料を提案
レベルアップを図った発酵素材も訴求

香栄興業は、CITE JAPAN 2025にて、新製品としてセラミドを含有しているホホバ種子エキスを展示し、アップサイクル原料として

「香料」「発酵」「SDGs」「ゾンビ細胞」の4つにゾーニングし、製品ラインナップの幅広さをアピールしつつ、来訪者のニーズに合った最適な提案に努めていく。

「香料」ゾーンでは、前回好評だった天然フレグランスを浸み込ませたアロマストーンを展示する。さらに1日の時間の流れをテーマに、早朝から日中、就寝前に至るまで、シーンに応じた様々な香りについて趣向を凝らした形で提案する。調合香料についてもラインナップを豊富に取り揃えていることをアピールしていきたい(藤倉努取締役)



「ここ数年、注力してきたカスタムオーダー製品については、ノウハウの蓄積がかなり進んでいる。このほど、生産能力の増強のため製造設備を増設した。今後さらに発酵分野に注力し、レベルアップしていくことをアピールしていく。発酵プロセスを細かくカスタマイズできるため、お客様のコンセプトに合った発酵素材を提供できることに加え、短期間でスピード感をもって高品質な発酵素材を提供できる柔軟性についても訴えていきたい(技術部 三谷茂樹氏)

「SDGs」ゾーンではホホバ油、海藻発酵液のほか、メロン由来のアップサイクル原料「植物プラセンタ(メロン胎座)」も展示する。

「ゾンビ細胞」ゾーンでは、前回技術発表を行った老化細胞除去素材「オウレイン」についてさらなるメカニズムの探索を行い、「メロリロート」との組み合わせにより効果がさらに高まることを確認で

「発酵」ゾーンでは、北海道産真昆布と植物性乳酸菌で発酵させたオリジナル素材「海藻発酵液(アルカウイーターF)」を紹介するほか、原料選定から加工・分析まで行う「カスタムオーダー製品」についてパネル展示を行っている。

「ここ数年、注力してきたカスタムオーダー製品については、ノウハウの蓄積がかなり進んでいる。このほど、生産能力の増強のため製造設備を増設した。今後さらに発酵分野に注力し、レベルアップしていくことをアピールしていく。発酵プロセスを細かくカスタマイズできるため、お客様のコンセプトに合った発酵素材を提供できることに加え、短期間でスピード感をもって高品質な発酵素材を提供できる柔軟性についても訴えていきたい(技術部 三谷茂樹氏)

きたことから、5月15日11時よりアネックスホールG302会場にて「皮膚における老化細胞除去と老化細胞除去素材について」をテーマに技術発表会を行う。

「お客様との共生」という企業スローガンのもと、営業部員と技術部員が一体となって素材を提案していくことが当社らしさであり、ブースにおいても営業部員と技術部員が来訪者の方々をお出迎えすることで、香栄興業のスタイルを表現していく。ゾーンを4つに絞った狙いはここにある。顧客の要望を実現する提案力についての周知も図っていきたい(藤倉努取締役)

阪本薬品工業

ブースNo.B12-09

素材だけでなく技術もサステナブルな「O/W乳化システム」を新提案

天然グリセリンの専門トップメーカーで、RSPOサプライチェーン認証取得企業である阪本薬品工業では、持続可能なパーム油利用に配慮した

製品の供給体制を整え、グリセリンからポリグリセリン脂肪酸エステルなどの各種誘導体までを一貫して製造・販売している。

今回のCITE JAPANでは、100%植物由来のグリセリンをベースとしたポリグリセリンとポリグリセリン脂肪酸エステルに、加熱不要のコールドプロセス製法と、同社が強みとするシグリセリンの感触調整技術を掛け合わせ、素材だけでなく技術もサステナブルで、優れた安定性と使用感を両立した「O/W乳化システム」を新たに提案する。

互いに溶け合わない油と水相を均一に分散させるためには、ステアリン酸グリセリルをはじめとした熱を加えて溶かす固体の乳化剤を添加し、加熱・攪拌して安定化させるのが一般的だ。

それに対し、コールドプロセス製法による乳化方法は、エネルギー消費量を抑制してCO₂削減に貢献する環境にやさしい乳化プロセスだが、一般的な乳化方法と比較すると使用できる乳化剤に制限があり、熱を加えずに攪拌するため微細な乳化物を調製しにくい。

また、水溶性高分子を併用して増粘させる必要があるが、これによってベタつきが出て感触が悪化してしまうといった課題もあった。



そこで同社ではこのほかに、シグリセリンの添加により水溶性高分子のベタつきを抑制し、さらにD相ゲル化の手法を応用したコールドプロセス製法によって、加熱することなく微細な乳化物の調製を可能にした新たなO/W乳化システムを開発した。

今回のCITEでは、同社が製造・販売する植物由来のグリセリン脂肪酸エステルやポリグリセリンを組み合わせた新たなO/Wシステムを用いてエネルギー消費量を抑制し、乳化剤だけでなく増粘剤を含めて全て植物由来の原料で構成された、サステナブルと使用感を両立した乳液をブースで実際に展示する。

「1つ1つの素材や技術自体はこれまであったものだが、これらを掛け合わせたシステム全体をパッケージにした今回のような提案はこれまでにない新たな取り組みだ。剤を紹介する。

今回のCITEでは、コールドプロセス製法でありながら使用感が良好で、素材だけでなく製造プロセスも環境に配慮し、サステナブルと使用感を両立した全く新しい乳液の処方例をメインで紹介する。現在は新たな乳化システムを応用して乳液だけでなく、クリームやファンデーション、サンスクリーンなど別のアイテムへの展開も進めている(同社)

ブースではこのほか、ポリグリセリンの保湿剤やポリグリセリンエステルの可溶性剤とW/O乳化剤、ポリグリセリン脂肪酸エステルのオイル増粘ゲル化剤、天然抗菌製剤を紹介する。



岡田氏

三菱商事ライフサイエンス ブースNo.C16-06

発酵技術を活用したトルラ酵母由来のリン脂質を主成分とする新原料を紹介

三菱商事ライフサイエンスは、第12回化粧品産業技術展(CITEJ APAN2025)にて、発酵技術を活用したアップサイタル化粧品原料「ファルベレ」シリーズの第3弾の製品となる、「セラドリップ」を中心に紹介する。同商品は、調味料用エキス抽出後のトルラ酵母残渣(未利用資源)より抽出されたリン脂質(シベルリンドネラリン脂質)を主成分とする、2025年2月発売の新規原料だ。

「リン脂質原料は一般的に固体が多く、液体のものには珍しい。また、人の体内で合成することができず、外部より摂取する必要がある必須脂肪酸α-リノレン酸を、リン

セラドリップは、トルラ酵母の細胞壁からシベルリンドネラリン脂質(極性脂質(リン脂質)90%・非極性脂質10%)を抽出し、それをペンチレングリコールとBGで液体化した原料だ。ペンチレングリコールとBGで溶解しているため原料安定性が高く、処方(水相・油相)への配合が容易で、ジェルや化粧品、クリーム、乳液などスキンケア化粧品全般に配合できるという。



1. Prize Category Most Innovative Raw Material

脂質型として豊富に含まれている点も特徴的だ。親水基と親油性を有するリン脂質型で存在するため、α-リノレン酸と水分を肌を引き込む力に優れている(岡田浩治化粧品事業部営業部長)

α-リノレン酸には抗炎症効果があり、美白素材としても知られるリノール酸の過剰な酸化による炎症を抑える作用もある。α-リノレン酸とリノール酸の両方を含むセラドリップは、肌に弾力やハリを与え、シワや赤みを改善するといったデータが確認されている。セラドリップ0.5%配合水溶液の単回塗布では、即時的に肌の柔らかさとハリ・弾力が向上した。

「1回の使用でも効果実感の高い原料で、28日間の臨床試験でも肌の柔軟性改善などが確認されている。アンケートでも約7割の方が、肌のハリや顔や目もとのかさつき

が改善したと回答している。酵母由来原料は独特の酵母臭があるが、セラドリップは独自の脱臭精製技術により臭いを抑制しており、液体原料なので非常に使いやすい。幅広い処方系でも、肌の弾力や保湿力を高めることが期待できる(岡田氏)

この原料はドイツの化粧品コンサル社が主催するBSB Innovation Award 2025にて、昔ながらの発酵技術を用いながら高い技術で原料が抽出され、併せて美容効果が確認できる点が評価され、機能性原料(リン脂質・コラーゲンブラスター・ピーリング)部門で第1位を受賞している。

成和化成 ブースNo.B9-18

「iVC」の多角的アプローチでワンランク上のビタミンC化粧品へ

化粧品の高付加価値化を実現するシリーズへ進化させている。出展する「CITEJ APAN2025」では、iVC各種原料の特性を活かした処方への応用技術も紹介していく。技術発表は「iVC」以外に、国内代理店を務めるフランス・SEPPIC社やアメリカ・Ashland社を含め、全8題を行う。また、ブース内では毎日、実演形式のワークセミナーを実施する。

様々な毛穴悩みに対応する「ポアショット」(iVCMGA)、ビタミンC高配合化粧品に最適なビタミンC誘導体(iVCDGAとiVCGA)の3題をテーマに技術発表を行う。「グルタチオンブラスター」と「ポアショット」については商標登録済みで、対象のビタミンC誘導体を配合した化粧品のキーコンセプトとして販促などに使用することも可能だ。

「iVC3LGA」は、抗酸化物質として働く成分で、美容医療やエステ、ドクターズコスメ市場では「白玉肌」へ導く成分として注目を集めている。一方で、グルタチオンは安定性が低く、原料特有のニオイがあることから、化粧品への配合が難しい。iVC3LGAは、細胞内のグルタチオンを産生促進し、さらにグルタチオンとの併用により抗酸化効果の相乗効果が確認された。グルタチオンへのWアプローチを実現するビタミンC誘導体として紹介していく。

また同社は、ビタミンC化粧品の多用途化と高濃度・高配合ニーズに対応する「iVCDGA」と「iVC3GA」の特徴を解をさらに深めていく。一般的なビタミンCは、経時により着色やニオイが生じ、安定性の課題より配合量が限られていた。また、有効成分の残存率も経時にもない減少してしまう。

ビタミンC誘導体「iVCDGA」と「iVCGA」は、高配合美容液中で経時安定性試験(50℃・3カ月)にて着色がほとんどなく、透明性を保ち、有効成分の残存率も90%以上であることが認められた。また、シートマスクやジェル、クリームなど様々な剤型に高配合可能なビタミンC誘導体として紹介を進める。

ヘアケア向け原料では、主力ブランドであるタンパク加水分解物とその誘導体「Promois(プロモイス)」の中で、現在あらためて注目を浴びているケラチンを注力紹介する。

サンケア向け原料では、ノンケミカル、酸化亜鉛フリーに次ぐ処方トレンドとして、紫外線吸収剤を内包したカプセル成分「Silasoma(シラソーマ)」を用いた「カプセルイン」サンスクリーンを紹介する。SEPPICからは非常に高い増粘力を持つ天然増粘剤のグルコマンナンを紹介する。Ashlandからは香料との併用で持続性を高める多機能性抗菌成分とサステナブルなレモンガラス由来の抗菌成分を提案する。

アイ・ティー・オー ブースNo.D16-11

メディカルコスメを目指す医師を支援 GO-VC、ナノスフィアをメインに

アイ・ティー・オーはメディカルコスメの普及に取り組んでいる。自社ブランドの製造のほか、原料開発・供給からOEMの受託にまで手がける。

2025では、GO-VC

性プロビタミンCにより構成されたナノ乳化カプセルで、通常のリップクリームと異なり皮膚が抗酸化性を有するため、不安定成分の安定化に寄与する。

また、ビタミンCピーリング、ナノスフィアXOをテーマに2つの講演を行う。ビタミンCピーリング効果(新コンセプト)のある多機能保湿持続型プロビタミンC「GO-VC」はニキビやシミ、シワ、頭皮の赤み・痒みに対する臨床報告も豊富で、世界の美容専門医が注目している。講演ではGO-VC配合の全く新しい使用感、質

ネスキームによって、メディカルコスメを目指す医師をサポートする。代表的な自社ブランドとしてプロビタミンCを配合した「AP5」、ナノカプセルのDDS(ドラッグデリバリーシステム)技術によってプロビタミンCを浸透させるアンチエイジングの高付価値ブランド「STI」がある。

第一ステップで男性医師などに、この2ブランドを通して化粧品に接してもらう。次の段階で保湿、美白など、個々の医師の要望に基づいて、OEM事業にまで手がける。自社ブランドの製造のほか、原料開発・供給からOEMの受託にまで手がける。

また、ビタミンCピーリング、ナノスフィアXOをテーマに2つの講演を行う。ビタミンCピーリング効果(新コンセプト)のある多機能保湿持続型プロビタミンC「GO-VC」はニキビやシミ、シワ、頭皮の赤み・痒みに対する臨床報告も豊富で、世界の美容専門医が注目している。講演ではGO-VC配合の全く新しい使用感、質

感の新素材ジェルポリマー採用の透明フェイスマスクを紹介する。GO-VCやアセライン酸誘導体、ペプチド配合美容液そのものをハイテク技術で固めたジェルシートで、フィット感や成分浸透の持続性を特徴とする。肌成分が長時間染み出すブリード機能を搭載した。

エクソソーム科学から生まれたエクソソーム様構造のナノカプセルが作成できる。低刺激効果も期待できる。また通常のエクソソームと異なり膜が酸化性のため、不安定成分の安定化にも寄与する。希望の成分を包接し、クラ

MP五協フード&ケミカル ブースNo.B9-09

コンセプト原料の販売強化へ タマリンドガム由来の開発品を紹介

MP五協フード&ケミカルは化粧品原料として天然由来の多糖類を製造・販売している。さらに商社機能を活かし、国内外から特徴ある原料を

取り揃え、多様なニーズにこたえる体制を整えている。中でも、植物エキスやビタミンなど機能性に優れたものを「コンセプト原料」と称して販売を強化している。これらは長年取り扱ってきたものだが、改めて販売を強化する体制を整備している。

今回のCITE JAPANでは天然由来の多糖類とコンセプト原料に二分して、ブースを展開する。天然多糖類は化粧品に処方設計する研究者・開発担当者に向けてプロモーションを行い、コンセプト原料は化粧品に処方設計する研究者・開発担当者に向けてプロモーションを行う。CITE

展示することで「コンセプト原料から処方まで」提案できることを訴求する。一方、多糖類では研究開発者に処方の設計方法

やテクスチャーの付与を提案する。CITE JAPANでは植物由来の多糖類、タマリンドガム(グリロイド6C)を化粧品専用グレードに刷新した「TAMAVISCO」をメインで紹介する。本製品は未利用のタマリンド種子を素材としたアップサイクル原料でもある。グリセリンの保湿作用を長時間維持する保湿効果がある。

低粘度化したタマリンドガムはタマリンドガムの持つ保湿効果をもそのままに低粘度化したため、スプレー処方やポンプフォーマーなど使用できる剤型が広がった。さらに洗浄剤で利用すると泡質も改善できると低粘度化しているため、ポンプフォーマーやスプレー容器のつまりを解消できる。テクスチャーは変えたくないが、保湿効果や泡質を改善したいという要望があり、開発を進めている。一方、カチオン化したタマリンドガムはヘアケアで、コンディショニングの効果や泡質改善が期待できる。高濃度のアルコールやポリオール類に

低粘度化したタマリンドガムはタマリンドガムの持つ保湿効果をもそのままに低粘度化したため、スプレー処方やポンプフォーマーなど使用できる剤型が広がった。さらに洗浄剤で利用すると泡質も改善できると低粘度化しているため、ポンプフォーマーやスプレー容器のつまりを解消できる。テクスチャーは変えたくないが、保湿効果や泡質を改善したいという要望があり、開発を進めている。一方、カチオン化したタマリンドガムはヘアケアで、コンディショニングの効果や泡質改善が期待できる。高濃度のアルコールやポリオール類に

技術発表では5月14日にTAMAVISCO、15日にコンセプト原料、16日に天然由来多糖類全般を紹介する。代表的なコンセプト原料として、Berkemyoisを

優れたポリフェノールで、褐変せず処方しやすい。従来、ポリフェノールは褐色に変色しやすいが、処方への配合が難しいという課題があった

が、その問題を解決する。

技術発表では5月14日にTAMAVISCO、15日にコンセプト原料、16日に天然由来多糖類全般を紹介する。代表的なコンセプト原料として、Berkemyoisを

丸善製薬

ブースNo.B5-23

「すすむ」をテーマに、若返り研究や感性の視点を取り入れた原料を紹介

植物を中心とした天然物から医薬品や医薬部外品・化粧品・食品の原料を製造する丸善製薬は「CITE JAPAN 2025」の展示テーマ

として「すすむ」植物にできることはもっとある。〜」を掲げ、天然由来の化粧品原料を紹介する。今回一番の注目原料である「ロータスリフト」は、ハスの胚芽から得られるエキスで、「若返り」をコンセプトとしている。また、海外の化粧品市場でトレンドとなっているスローエイジングにも対応している。(ロータスリフト、Lotus Lift)は同社の登録商標)

以前よりinvitro試験による有効性データを取得済みだったが、今回新たにヒトボラントリア試験を実施。同原料を配合した製剤を2カ月間塗布したところ、精製水の代替として提案



保湿剤といった成分の配合量を減らすことができ、ミニマリズム処方を実現する。薄毛に悩む被験者を対象としたヒトボラントリア試験にて毛髪密度が有意に改善する効果が確認されている。 「化粧品においては、効能効果だけでなく、実際の使用感や心とのつながりも重要な要素と捉えている。『コメ発酵液PD』は高い有効性に加え、消費者の心に響くような化粧品づくりに貢献できる原料であることをアピールしていく(同社) ヘアケア分野では、ニ

三菱コーポレーション ブースNo.C16-10

ミニサイズのメーク容器を拡充 工場設備の増強で新たな開発品も

化粧品容器メーカーの三菱コーポレーションは、主力のコンパクト容器で、若い世代を中心に人気が高まっているミニサイズコスメの企画に



応する新型容器を開発した。持ち運びやすい・使いやすいサイズ感で、バリエーションが豊富なイオマスPETやケミカルリサイクルPETなど環境に配慮した素材を選択することができる。出展する「CITE JAPAN 2025」では、「SANKI」ブランドから、アイカラー、アイブロー、フェースカラー向けのミニコンパクトとミニルースパウダー容器を初展示する。また、スキンケア容器では、新しい機構・仕様の容器開発に挑戦しており、展示ブースではサンプル展示して顧客の反応をうかがう。展示会出展に向けて、近純平社長は「常に新しい提案を行っている容器

会社として認識してもらえような展示会にしたい」と話した。 同社は、自社工場でのコンパクト容器とボトル容器の開発から製造までの一貫生産体制を強みに、顧客のニーズに合った容器の提案を行っている。工場は、コロナ禍からの拡大が続いていることから、「増産に向けた設備投資を行い、納期対応を強化している。今後もQCDの向上に向けた設備の増強を計画している」と(近社長)という。新たに成型機の増設や金型の増面も予定している。設備投資とともに、新型容器の開発も強化する。今回の新型容器の開

発では、生活者のライフスタイルの変化に着目し、使いやすいサイズ感を重視した。 近年、キャッシュレス決済の普及もあり、ファッショ性を重視した小さめのバッグが若い世代を中心に人気を集めている。それにもない、コスメ選びも小さめのバッグが期待できる。 開発したアイカラー・アイブロー、フェースカラー向けのミニコンパクトは、アプリケーションの保管スペースを敢えてなくしてミニマム設計にした。6色使える専用の中皿も開発した。 ミニルースパウダー容器の中蓋は、メッシュタイプとPP穴あきタイプでも確認できる。

の2通りを用意している。加飾も含めてロット3000からの小ロットニーズに対応し限定品などにも適した容器として提案していく。 同社は2022年10月の新経営体制以降、環境配慮型容器の開発を加速させ、新型容器は全て環境に配慮したPET樹脂を使用している。 近社長は「環境に配慮した製品づくりに取り組む企業としてまい進していく」と話す。5月初旬には自社ホームページのリニューアルに合わせ、紙製カタログから電子カタログへ完全移行している。ここで紹介した新型容器は電子カタログでも確認できる。